

知立駅周辺エリアプラットフォーム
検討会議#2／2025.09.18

エリアプラットフォームの今後の展望と 今年度の到達目標・実施内容について

本日の議事

1. エリアプラットフォームの今後の展望について

2. 各部会／プロジェクトの実施報告

3. 意見交換

エリアのコンセプト



知立駅周辺地区は、古くは東海道五十三次の池鯉鮒宿として、

現在は名鉄本線と三河線が交わる交通の要衝として、

様々な人々が交わる、つながるまちとしてこれまで成長してきました

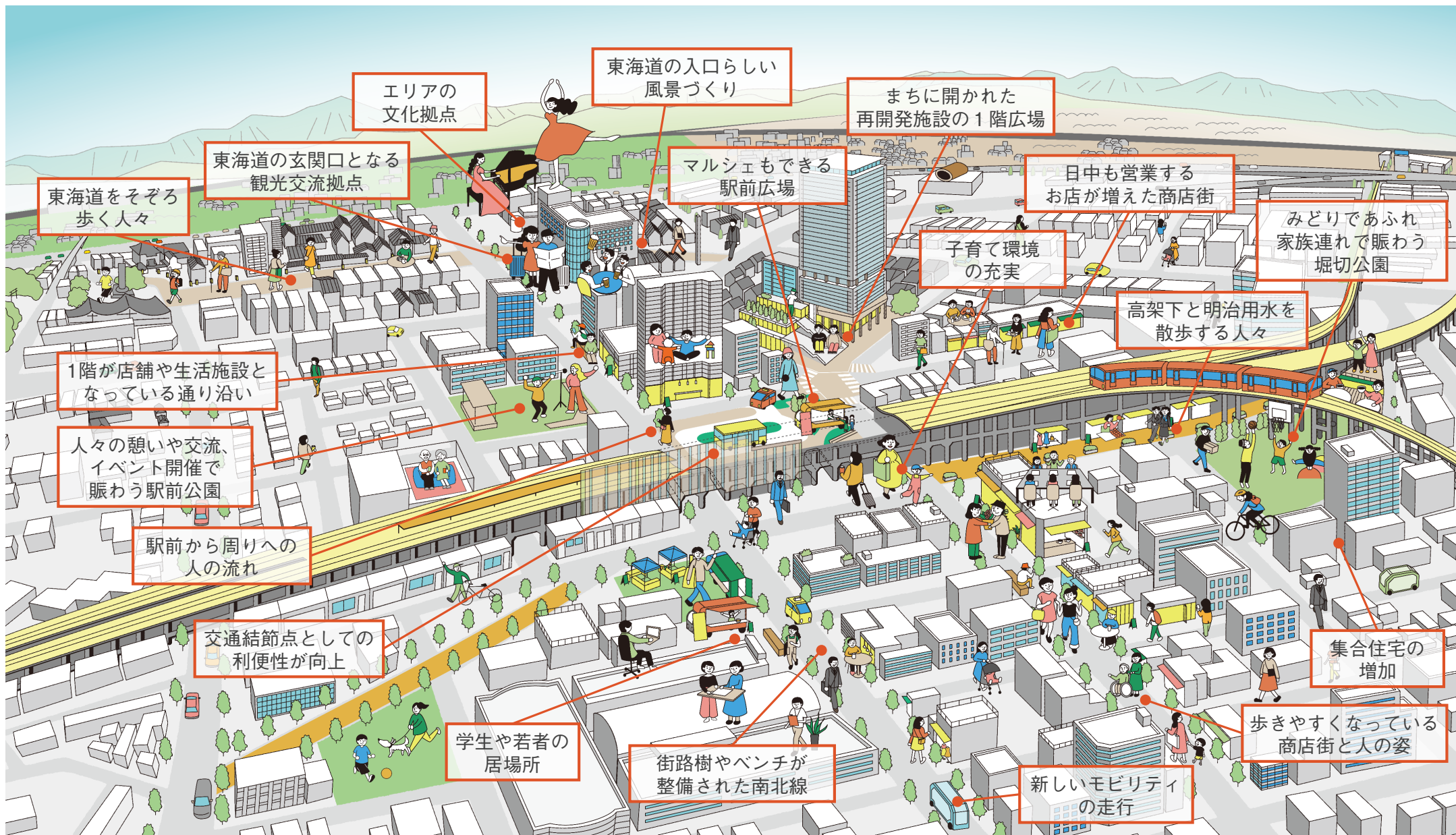
100年に一度のまちづくりのこの契機に、西三河の様々な地域をつなぐ玄関口として、

宿場町としてのアイデンティティを現代に受け継ぎ、新しいものと古いもの、

暮らしと生業、憩いと賑わい、様々な人や場所、時間をつなぎ、

そこから新しい **魅力や暮らし、挑戦を生み出す** まちを目指します

将来のまちと暮らしの姿



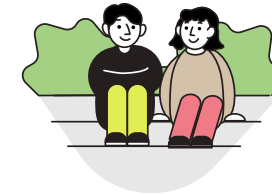
5つのまちづくり方針

policy
01

HUB 人と人が出会うまち

policy
02

PARK 広場からはじまるまち

policy
03

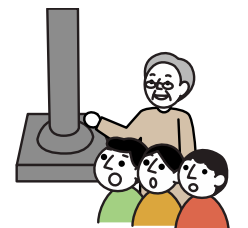
WELL-BEING 暮らしを紡ぐまち

policy
04

CHALLENGE 誰もが挑戦しやすいまち

policy
05

COMMUNITY コミュニティが息づくまち



まちづくりの将来目標

まちづくり方針に対応した6つの将来目標

		2020	2030	2035	2050
01	交流人口 1日あたりのエリア滞在人口 (KDDI Location Analyzerに基づく)	6,600人 (2021年の平均値)	7,000人 6%増	8,900人 35%増	13,200人 100%増
02	広場・公園面積 エリア内の広場・公園の総面積 (知立市提供)	5.8千m ² (2022年値)	7.4千m ² 28%増	14.5千m ² 150%増	15.0千m ² 159%増
03	定住人口 エリア内の定住人口 (都市計画基礎調査に基づく)	2,700人 (2021年値)	2,900人 7%増	3,600人 33%増	5,400人 100%増
04	商業・業務床面積 エリア内の商業・業務用途床面積 (都市計画基礎調査に基づく)	84千m ² (2022年値)	89千m ² 6%増	114千m ² 36%増	168千m ² 100%増
05	住み続けたいと思う人の割合 (市民アンケート調査結果に基づく)	65.8% (2023年調査)	67.5% 1.7ポイント増	70.0% 4.2ポイント増	80.0% 14.2ポイント増
06	年間乗降客数 知立駅における1年間の乗降客数 (知立市の統計に基づく)	1,000万人 (日2.8万人) (2022年値)	1,100万人 (日3.1万人) 8%増	1,200万人 (日3.2万人) 14%増	1,300万人 (日3.5万人) 24%増

HUB 人と人が出会うまち

1 アイレベルでの賑わいづくり

TRIAL

2030

5年以内に実施する取り組み

商業誘致の機会づくり

- 広場や空地を活用したお試し出店機会の創出
- 不動産開発に対する地上階の商業誘致に対するサウンディング※

ACTION

2035

10年後までに実現する取り組み

駅北地上階の商業誘致

- 開発に対する商業誘導のための支援施策実施（昼業態を中心に）
- オープンカフェなど、歩道空間活用の制度化

CHALLENGE

2050

25年後までに挑戦する取り組み

周辺エリアの商業集積

- 駅南地区や新地・新富地区の商業機能集積

2 歩きやすさと回遊性の向上

回遊性向上の実証

- 道路や広場での滞留施設設置の実証実験
- 歩行ネットワーク検討
- エリアの情報発信

- 公共交通の利用促進とエリアを回遊するモビリティの必要性検討

新設街路の機能向上

- 南北線や環状線等の滞留施設や景観整備
- エリア内外をつなぐ歩行者ネットワーク整備（サイン、安全施設）

街路の歩行空間拡充

- 本町堀切線のコミュニティ道路化
- 東海道の歩行空間充実
- エリア内における新モビリティの導入

3 広域的なアクセスの拡充

駅前広場の機能向上

- 駅前広場の整備による公共交通の乗換・待合機能の充実
- 広域バスや企業バスの拡充検討

駅前広場の機能拡充

- 駅前広場等を活用したバスやモビリティの発着機能の充実

PARK 広場からはじまるまち

1 知立市らしい 玄関口の整備

2 憩いや居場所となる 空間づくり

3 賑わいと挑戦を生む 仕掛けづくり

TRIAL

2030

5年以内に実施する取り組み

新たに整備される
公園・広場の活用
に向けた実証実験の実施

- 駅前暫定広場の活用を通じた多様な主体による多様な活動の試行
- 各広場や公園に対する市民ニーズの把握
- 公園・広場整備に対する企業の協力可能性の検討とサウンディング※

ACTION

2035

10年後までに実現する取り組み

駅前広場の整備

- 日常的な居場所となり、イベントに活用可能な交流空間の整備
- 玄関口にふさわしい景観の整備

駅前公園・堀切公園

- 多様な世代が憩うことができる公園の整備（木陰や屋根も）
- 周辺敷地との一体性を確保するための連携
- 民間企業との連携

広場活用制度の導入

- 新たな広場や公園において、多様な利活用を受け入れられる制度の導入

CHALLENGE

2050

25年後までに挑戦する取り組み

駅前広場の充実・拡張

- 駅玄関口における多様な観光交流機能の充実

みどりと賑わいの
ネットワークの形成

- 規模や内容が多様な広場・公園の充実（池端公園、リリオ周辺、旧三河知立駅周辺等）
- 公園・広場と街路、民間敷地が連なるみどりの形成
- 地域と連携した維持管理体制の強化

WELL-BEING 暮らしを紡ぐまち

1 移住・定住しやすい環境づくり

TRIAL

2030

5年以内に実施する取り組み

情報発信の強化

- 駅周辺エリアに関する情報発信（イベント、まちの変化等）を強化
- これから変化することをブランディング※

ACTION

2035

10年後までに実現する取り組み

生活環境の充実

- エリアにおける買い物施設や子育て支援施設などの充実・誘致

CHALLENGE

2050

25年後までに挑戦する取り組み

居住者の増加と継承

- 駅の南北において集合住宅をはじめとした多様な住宅の誘致
- 子どもが成長しても、戻ってきたくなる環境づくり
- 安全安心な地域の維持と向上

2 子育て環境の充実

子育て世代の意見把握

- 子育て世代の意見を聞く機会を増やす
- まちづくりへのフィードバック方法を検討

子育て環境の充実

- 子どもと安全に過ごせる公園整備と設備へのきめ細やかな配慮
- 子どもと一緒に入れる、遊べる施設や教育環境の充実・誘致

3 安全・安心な住環境の形成

暮らしの安全安心強化

- 子どもの見守強化や高齢者居住の安定確保
- 防犯カメラの設置検討
- 地域防災の学びの機会の充実

住環境の整備

- 広場や街路における夜間も安全な照明の設置
- 災害時でも活用可能な広場や公園の機能確保
- 誰もが安心して住み続けられる居住整備

CHALLENGE 誰もが挑戦しやすいまち

1 学生や若者が挑戦できる機会をつくる

TRIAL 2030

5年以内に実施する取り組み

学生・若者の参画機会

- 暫定広場における学生や若者主導の企画実施
- まちでの学生活動発表
- 学生アイデアソン※実施
- 学生の“たまり場”試行

ACTION 2035

10年後までに実現する取り組み

学生・若者の拠点形成

- 駅周辺における学生や若者の居場所となる広場や拠点の整備
- 学生や若者がまちに関わる仕組みづくり

CHALLENGE 2050

25年後までに挑戦する取り組み

エリア全体への拡大

- 学生の居場所となる拠点の拡大
- 学生や若者の活動の種類や幅の広がり

2 新技術やアイデアを試し、かたちにする

実証実験への挑戦

- まちづくりに関する新技術や新サービスの実証実験の募集と試行による経験の蓄積

実証から実装へ

- 試行の中から駅周辺地区への実装事例創出
- 実証を行いやすい環境づくりとブランド化（実証実験都市化）

業務用途の集積と昼間人口増加

- 他都市より先行して新しい技術を取り入れたエリアの実現
- 実証環境を期待した新たな拠点需要の増加
- 業務用途の集積による昼間人口の拡大

3 起業やオフィスに魅力的なまちになる

仕事・起業環境の調査

- リモートオフィス試行
- 店舗起業意向調査や支援検討
- オフィス需要に関するサウンディング

オフィス・拠点の誘致

- 不動産開発におけるオフィス空間の確保と企業の積極的な誘致
- 個人店舗などの起業促進・支援

COMMUNITY コミュニティが息づくまち

1 多様なコミュニティの関わり

TRIAL 2030

5年以内に実施する取り組み

地縁組織の体制強化

- 既存町内会や商店街の課題把握と体制強化に向けた検討
- 新たな住民の声を聴く機会づくり

ACTION 2035

10年後までに実現する取り組み

新たな住民の参画

- 新しくこのエリアに暮らす住民の地域への参画機会の確保
- 町内会活動や商店街活動同士の連携拡大

CHALLENGE 2050

25年後までに挑戦する取り組み

コミュニティとまちづくりの継続的な発展

- 地域で継続的にまちを運営する体制構築（地縁組織の安定的存続・まちづくり体制の確立）
- 祭りや歴史文化の継承体制の構築
- 公共空間などを利用した池鯉鮒宿の雰囲気表現

2 歴史文化を引き継ぐ仕組みづくり

歴史文化への関心強化

- 知立まつりへの関心作り
- 東海道のあり方検討と部分的な修景の実施
- リリオのまちなか展開
- 観光交流センター強化

東海道整備と参加拡大

- 東海道修景や沿道施設・史跡、サイン更新整備
- 知立まつりの体制強化と参画機会の拡大

3 まちを育てる地域の体制づくり

まちづくり体制の検討

- エリアプラットフォーム構築と持続的な運営体制の構築
- まちづくりを進める法人組織と収益源の検討

まちづくり体制の確立

- エリアプラットフォームの規模拡大
- まちづくり組織構築と、自主的な事業運営体制の構築

エリアプラットフォームの枠組み

知立駅周辺エリアプラットフォーム規約より

(目的)

第2条 本プラットフォームは、「100年に一度のまちづくり」として進められている知立駅付近連続立体交差事業や知立駅周辺土地区画整理事業等の中心市街地の再整備を契機に、産官学民が一体となって知立駅周辺エリアの賑わいの創出や魅力向上を図るための事項を協議し、知立駅周辺の将来像を明確化した未来ビジョンの策定やその実現のための取組の推進を図ることを目的とする。

(活動内容)

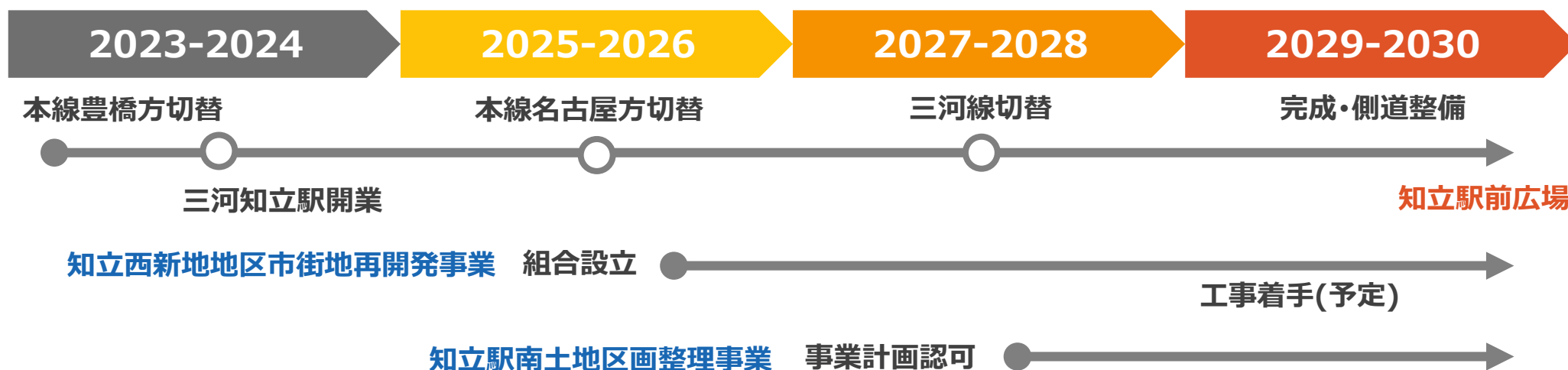
第3条 本プラットフォームは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 知立駅周辺の未来ビジョンの策定及びその実現に資する活動
- (2) 会員間での情報共有と連携、まちづくりに関する交流に資する活動
- (3) 知立駅周辺の空間資源の活用と管理、及びその実験のための活動
- (4) 知立駅周辺の魅力や文化及び観光に関する情報発信のための活動
- (5) 知立駅周辺の新たな価値創造やブランディングに資する活動
- (6) その他、本プラットフォームの目的を達成するために必要な活動

2 特定の団体または個人の営利を目的とした活動は行わない。

- ・基本的には、ソフト面を中心としたまちづくりに関する議論が中心であること
- ・エリアプラットフォームが事業を行うのではなく、取り組みや事業の実施は各主体（行政含む）であること
- ・行政事業としての組織ではなく産官学民連携の組織であること

今後のエリアプラットフォームの進め方



エリアプラットフォームのフェイズ

地域の将来像の議論を中心とした初動期
(未来ビジョンの策定)

議論から実践への
展開に向けた移行期

各主体の本格的な事業
実施に向けた準備期

具体的な事業を
中心とした展開期

エリアプラットフォームの活動

将来像に関する検討と
事務局によるとりまとめ

実現に向けた議論と
各主体の試行・共有

各主体の実践・共有と
自律的運営への移行

実践を中心とした共有と
自律的運営

エリアプラットフォームのメンバー

地域の代表者を中心
としたメンバー構成

新たな主体の巻き込みと
担い手の拡大

担い手を中心とした
運営体制への移行

エリアプラットフォームの体制移行の提案

昨年度まで

検討会議

未来ビジョンに関する
議論と方針決定



率先プロジェクト

具体的な
プロジェクトの
試行



ワークショップ

まちの将来像
に対する
意見収集



今年度から

検討会議

各種取り組みに対する
情報共有・情報交換・議論

情報共有



部会

個別分野に関する
議論や提案、具体化

具体化



率先プロジェクト

将来像実現のための
個別の取り組み・事業



今年度の実施事項

検討会議

- 各部会・取組の情報共有を基本としつつ、**新たな担い手確保**に向けた議論と行動を開始
- 新たな担い手の**話題提供**により知見を深める

ビジョン検討部会

- 目標管理と指標分析**、目標実現に向けた戦略検討を実施

情報発信部会

- イベント等での周知活動**、駅前広場における**サイネージ等の実証検討**

組織体制部会

- まちづくり会社の設立**に向けた勉強会と方向性の検討

暫定広場

広場運用の課題分析
人流測定の実証

空家補助

普及活用の拡大

高齢者見守り

**スタートアップ支援の
実証環境の課題抽出**

東海道

街並み修景検討
(問屋場跡地)

本日の議事

1. エリアプラットフォームの今後の展望について

2. 各部会／プロジェクトの実施報告

3. 意見交換

部会① ビジョン検討部会

昨年度参加者：

知立市商工会、株式会社藤田屋、株式会社FUJI、名古屋鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社

昨年度の検討成果

- 昨年度は主に、今後のまちづくりの目標設定及びモニタリングや要因分析を行うための目標指標とモニタリング指標、目標値設定を議論
- 検討の結果、**未来ビジョンにおける目標指標及び目標値の設定**と、モニタリング指標の設定までは明らかにすることができた
- 一方、詳細なデータ分析に基づく課題の特定やその対応のための施策提案までには至っておらず、引き続き検討が必要



今年度の到達目標

- 事務局のデータ収集・分析結果をもとに、エリアの将来像実現における課題とその対応のための取り組みについて議論・検証を行い、**優先度の高い取り組みを戦略として提案**する
- 仲間づくりのための**データ公開や検証のあり方、仕組み**についても検討を行う

部会① ビジョン検討部会

地域の状況を適切にモニタリングするための指標（案）

関連するまちづくり方針	将来目標	モニタリング指標案
つながるまち 知立 CONNECTING CHIRYU	年間乗降客数	通勤通学駅利用者数（定期）
		公示地価（路線価）
		エリア容積率（延床面積）
HUB 人と人が出会うまち	交流人口	歩行者数（主要箇所）
		1階商業床比率
		平均滞在時間
PARK 広場からはじまるまち	広場・公園面積	公園利用者数
		駅前広場滞在者数
		広場・公園イベント数
WELL-BEING 暮らしを紡ぐまち	定住人口	子ども人口（比率）
		暮らしの満足度
		犯罪・事故発生率
CHALLENGE 誰もが挑戦しやすいまち	商業・業務床面積	従業者数
		商店街売上金額（店舗あたり）
		新規開業事業者数
COMMUNITY コミュニティが息づくまち	住み続けたいと思う人の割合	町内会加入率
		商店街加入店舗数
		知立まつり参加者数

部会② 情報発信部会

昨年度参加者：

知立まちづくり株式会社、一般社団法人ゆめナビジャパン、株式会社キャッチネットワーク
西日本電信電話株式会社

昨年度の検討成果

- 昨年度は主に、知立駅周辺地区のブランディングやエリア内外の関係者・市民への周知を目的として、必要な情報発信の戦略について議論
- 多様な情報発信手法や形態について議論を行いつつも、①まずは市民1人1人に知ってもらうため**情報を集約**を行うこと、②**イベントなどを通じて関係者にまちづくりの動きを知ってもらう**こと、③駅利用者を中心にしっかりと情報発信を行う方法として、特に**デジタルサイネージの活用**について提案



今年度の到達目標

- 提案された**個々の取り組みを関係者と個別にやり取り・実施**しながら、**デジタルサイネージによる情報発信の試行について具体化**を行い、次年度の実施に向けた準備を行う
(プロジェクトに移行)

部会② 情報発信部会

多様な主体の巻き込みを目指した情報発信の段階的な推進

これからのエリアの変化を段階的、積極的に情報発信し、様々な主体の巻き込みや参加を促します。

STEP1(2025-2026)

情報の集約と公開

未来ビジョンの策定を契機に、知立駅周辺整備事業やまちづくりの情報をホームページに集約



市ホームページでの情報集約

既存媒体の活用

観光交流センターやイベント、関係者の持つ既存媒体等を積極的に活用し情報発信



マーケットイベントでの情報発信（一宮市）

STEP2(2027-2029)

駅前地区でのPR実証実験

暫定広場や工事の仮囲い、既存インフラ等などの活用により、多様な情報発信の実証・試行



換気塔を活用した参加型情報発信（豊橋市）

情報コンテンツの充実

SNSや情報アーカイブ、まちづくり通信や動画など、情報発信を行うためのコンテンツを充実



エリアマップ（知立駅北商店街）

通信（喫茶七番）

STEP3(2030-)

デジタルサイネージの運営

駅前広場の竣工を契機に、駅前でデジタルサイネージを活用し地域の様々な情報を発信



駅前広場でのデジタルサイネージ（一宮市）

まちづくり拠点の設置

地域でまちづくりの詳しい内容を知ることができるまちづくり拠点を設置



都市開発拠点における模型展示（シンガポール）

部会② 情報発信部会

□今年度はまず、工事壁内へのデジタルサイネージ設置に向けた検討と準備を進める。



部会③ 組織体制検討部会

昨年度参加者：知立まちづくり株式会社、町内会（本町・新地町）、一般社団法人ゆめナビジャパン、知立市観光協会、知立市商工会、名古屋鉄道株式会社、独立行政法人都市再生機構

昨年度の検討成果

- 昨年度は主に、今後のまちづくりを持続的に実施するための地域の組織体制に関する課題と、必要なまちづくり体制について議論
- 現在は、個々の組織がそれぞれに役割を果たしているが、今後様々な公共空間が整備され、各組織の世代交代を見越したうえで、①**エリアプラットフォームの体制拡充**と、②**まちづくり会社の設置が必要**であることが整理された



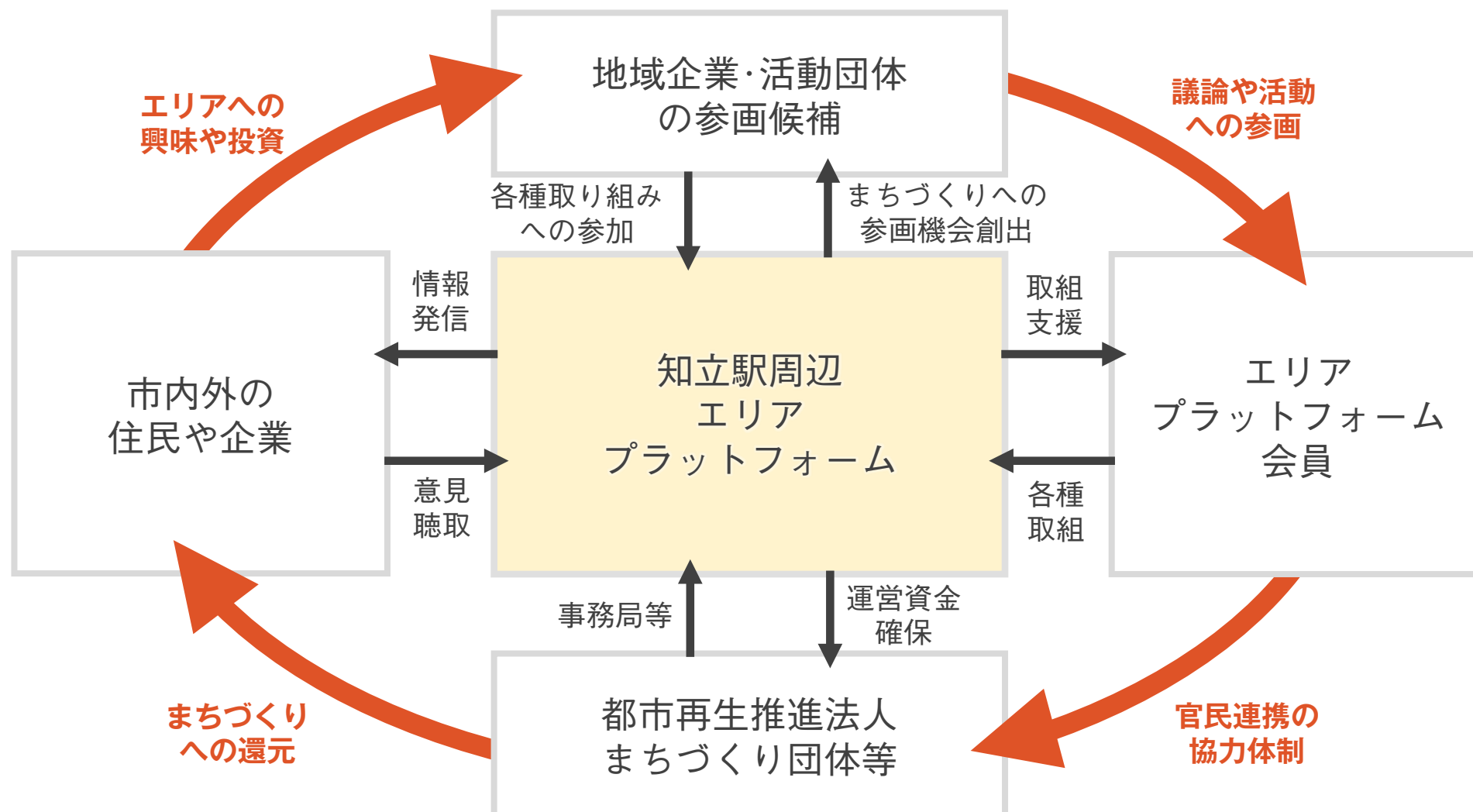
今年度の到達目標

- エリアプラットフォーム体制の拡充は検討会議全体で議論
- まちづくり会社の設置について、知立まちづくり株式会社と協議を開始しており、今年度中に他の関係者とも議論しながら**まちづくり会社の設立に向けた具体的な方針を出す**予定

部会③ 組織体制検討部会

持続的なまちづくり体制の構築

未来ビジョンをもとにした主体的なまちづくりの推進のため、エリアプラットフォームが核となり、多様な主体の巻き込みを図りながら、持続的なまちづくり体制の構築を進めます。



プロジェクト① 駅前暫定広場の利活用プロジェクト

主な実施者：(一社)ゆめナビジャパン、知立市商工会、知立市経済課

これまでの実施成果

- 暫定広場の利用促進により、月に1回程度の定期イベントを開催。一般利用も増加し、イベントやマーケットのほか、キッチンカー等の日常的な出店、町内会による盆踊りの開催など、活動も多様化
- 利活用が増加する一方で、電源などの設備に対するニーズ、騒音やごみなど管理上の課題などが発生しているところ

回	日程	内容	実施団体
1	4月20日	今こそ知立の ONE チーム～防災を学ぼう～	(一社)知立青年会議所
2	5月3日	知立ドリームマルシェ de お祭りワッショイ！！	(一社)ゆめナビジャパン
3	7月28日	今こそ知立の ONE チーム～せかいのあそびを知ろう～	(一社)知立青年会議所
4	9月11日	39呑み (SAKUNOMI) 知立飲み歩きイベント	知立市商工会青年部
5	10月12日	知立ドリームマルシェ de やきいもらんど with もっと知りたいきゅうQたい	(一社)ゆめナビジャパン
6	10月26日	わくわくワークショップ	知立市商工会青年部
7	11月16日	今こそ知立の ONE チーム～カラオケで遊ぼう～	(一社)知立青年会議所
8	12月10日 ～1月31日	イルミネーション	(一社)ゆめナビジャパン
9	12月21日	ちえキャン	知立市商工会青年部
10	2月1日	今こそ知立の ONE チーム～運動で健康になろう～	(一社)知立青年会議所
11	2月22日	知立あるクエスト	知立市商工会青年部
12	3月29日	知立ドリームマルシェ de CHALLENGE	(一社)ゆめナビジャパン

令和6年度実績

委託事業のイベント：12件

自主開催のイベント・出店：88件



合計：100件
(稼働率32%)

令和7年度は現在時点で稼働率82%

プロジェクト② まちなか事業者誘致プロジェクト

主な実施者：知立市経済課・企業立地推進課、知立市商工会、碧海信用金庫 等

これまでの実施成果

- 「知立市中心市街地出店事業者支援補助金（知立市経済課）」は、知立駅周辺エリア内の空き店舗を活用して昼間に飲食店等を行う事業者へ家賃や改装費の補助を行うものであり、**家賃と改装費それぞれ2件ずつ交付申請**があった。
- 「オフィス開設等補助金（知立市企業立地推進課）」は、こちらは市内にオフィス等の開設する事業者に対し、その設置に要した費用の一部を補助するもので、知立市立地適正化計画の都市機能誘導区域に開設した際は加算措置が設けられている。**知立駅周辺エリア内での申請実績は現時点ではない。**



今年度の実施内容

- 引き続きまちなか事業者誘致に向けて普及展開を進める
- 今年度の状況として、商業事業者についてはすでに2件補助が決定
- オフィス開設についても実績創出を目指す



プロジェクト③ 高齢者居住サポート実証プロジェクト

主な実施主体：(株)FUJI、野村開発(株)、知立市経済課 等

これまでの実施成果

- 市内11名のモニターにご協力いただき、見守りシステムの実証実験を半年間実施
- 実証実験の結果、既存の見守りシステムとの併用により、不動産管理会社の見守りに対する負担減少につながる可能性があることが明らかとなり、生活リズムの乱れの把握など、福祉政策との連携の可能性も期待できることが示唆
- 6/23に庁内関係課に成果報告をいただき、今後FUJIさんのサービス展開に合わせ、施策での活用可能性がないかを各課に周知



株式会社FUJI 提供資料



今年度の実施内容

- 今回の実証実験の経過を踏まえ、知立市としてスタートアップ企業や実証実験支援のための枠組みを検討し、エリアプラットフォームにも適宜相談を予定
(プロジェクトとしてもその方向に変更を行う予定)

プロジェクト④ 東海道まちなみ修景プロジェクト

主な実施主体：知立まちづくり(株)、銀座エリアの沿道関係者、知立市経済課 等

これまでの実施成果

- ❑ 銀座通り商店街や沿道関係者による5 回の勉強会を実施し、東海道らしい街並み形成に必要な取り組みや問屋場跡地の移設について、具体的な検討をもとに関係者の理解を深めた
- ❑ 具体的な取り組み実施にあたって、商店街以外の主体の巻き込みや取組範囲の拡大、そのためのPR などの取り組みが必要であることを確認
- ❑ 今年度7月にはワークショップにより広く沿道の意見を集め、街並み修景のために必要な取り組みや問屋場跡地の移設の方向性について意見収集を行っている



今年度の実施内容

- ❑ 東海道まちなみ修景への取り組みとして、短期的に街並み全体でできる取り組みと問屋場跡地の計画をとりまとめ、出来ることから早期に実施を進める

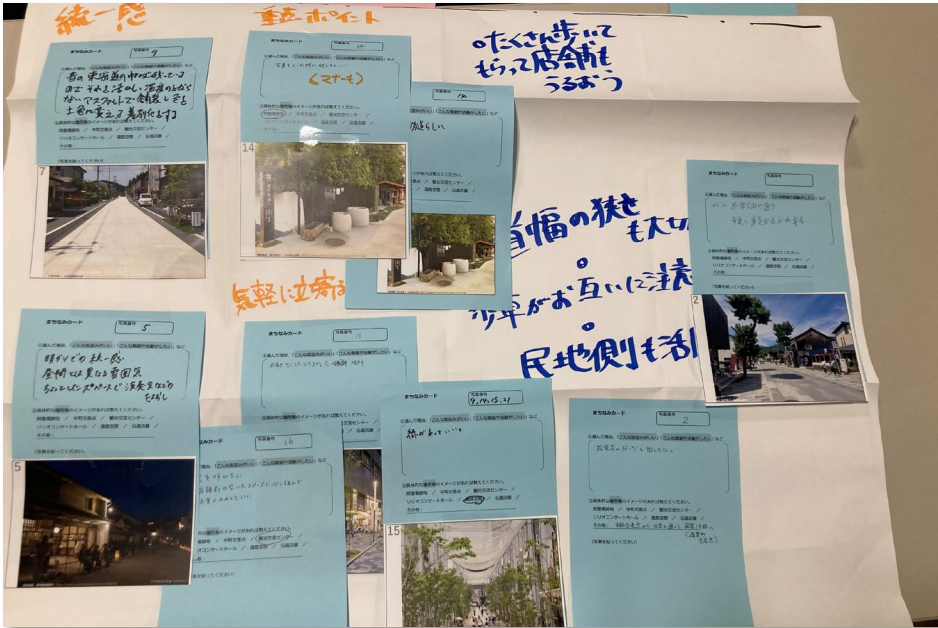
プロジェクト④ 東海道まちなみ修景プロジェクト

7月ワークショップの様子

東海道池鯉鮒宿まちなみ修景プロジェクト 令和7年度第1回勉強会
東海道のまちなみのあり方を考えよう

日 時 | 2025 年 7 月 7 日 (月) 18:00~20:00
場 所 | リオコンサートホール 2 階 会議室

【 プログラム 】	
時間	内容
18:00	1. 開会挨拶・趣旨説明
18:10	2. 話題提供①：池鯉鮒宿の歴史とまちなみについて 知立市元学芸員/名阪興業株式会社 技術室 社員 特定非営利活動法人 Green Trust 会員 岡田 美穂子 氏
18:35	3. 話題提供②：旧街道の再生に関する事例紹介 ・ 東海道をはじめとする旧街道のみちづくりや意匠についての事例紹介 ・ グループワークと「ビジョンカード」の説明
18:50	－休憩（5 分）－
18:55	4. グループワーク ①現在の東海道の課題と今後の期待 ②実現したいまちなみについての議論 ・ 「いいな」と思う事例写真を選び、その理由や知立で実現したい事などを共有 ・ 目指す方向性や取組を模造紙にまとめ、班としての模造紙のタイトルを決める
19:50	5. 全体共有・講評
19:55	6. 閉会挨拶・今後の予定など



プロジェクト⑤ 公共空間デザインプロジェクト

主な実施主体：知立市都市整備部、有識者 等

これまでの実施成果

- これまでエリアプラットフォームでの議論やワークショップの意見をもとに、専門家とのワーキングを行いながら、駅前広場や周辺街路・公園のデザイン検討を推進
- 高架下の活用方針や駅前公園・堀切公園の計画具体化のための調査にも着手し、周辺の自転車等の通行量調査や市民アンケート、民間事業者へのヒアリング等を実施
- 今年度は、3団体（ゆめナビジャパン、知立市商工会青年部、知立青年会議所）と具体的な施設等の内容について、協議を行いながら検討を推進

本日の議事

1. エリアプラットフォームの今後の展望について

2. 各部会／プロジェクトの実施報告

3. 意見交換

- ・ エリアプラットフォームのあり方と新会員の提案について
- ・ 各部会やプロジェクトの活動内容について
- ・ 新たな取り組みや部会設置に対する提案について